



自分が好き 友だちが好き このまちが好き

横浜市立下野谷小学校

since 1926

# 学校だより

6月号

令和2年6月1日

## 気を引き締めて

校長 高橋義成

胸の内は、ようやく始業式を迎えるような心境です。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、3月3日より、これまでのご理解とご協力、ご支援に改めて感謝申し上げます。6月1日からしばらくの間は、一日おきの分散登校となります。午前と午後の入れ替えで実施している学校もありますが、登校班のない本校において、まずは少しでも安全に來られる方法を模索して選択しました。地域ごとに分けたのも、兄弟姉妹で同じ日に合わせよう、孤立して歩く子を減らそう、学援隊のサポートを得やすいようにしよう、近隣で協力しやすいようにしよう、2回しか学校に來ていない新1年生にとって午後からの登校は危険が増すのではないかと検討してきました。しかし、355のご家庭があり、学校の動きが必ずしもフィットしないこともあるかと思ひます。学校再開の初期段階を安心・安全に迎えるためにも、今一度ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

令和元年度は、1年間かけて地面を固め、学校の基礎工事を着々と進めるように努めてまいりました。子どもたちの活躍場面が増え、「これを自信につなげてほしいね。」という職員の会話も明るさを増していました。特に新6年生は、5年生の1年間での成長が顕著で、令和2年度のスタートダッシュをさせてあげたいと職員も気持ちの一つにしており、私自身も「ルールを守る子」から「全校の事を考えて、ルールを作る子、そして、守る先頭に立つ子」に高めたいと感じていました。一度リセットしての新しいスタートラインになりますが、改めて全校の428人の子ども達を「細かく見る虫の目、全体を俯瞰して見る鳥の目、潮の流れをよむ魚の目」で見えていかなければと気を引き締めています。

学習面でも学校は、厳しい場面に立たされています。30人以上の子ども達の目線の一つにさせ、どの子にも「めあて」を達成させるべく、課題に向かわせなければなりません。学校では、座る姿勢から、教科書ノートや筆記用具など持ち物がそろそろこと、前回学習したことを想起して、本時の学習につなげること、勉強が始まるというスイッチを入れることなどを2～3分で全員揃うように指導します。児童の集中力の持続を考慮して、始めのうちは30分を区切りに授業を行います。登校した日の授業の中で、翌日の家庭学習で取り組むことを伝えておきます。次の登校日は、その課題の確認から授業に入りますので、家庭学習が復習や予習になるように指導します。子ども達に学び方をまなばせることも今年度の重点になると思ひます。学校では、知識を詰め込むような授業にならないよう配慮し、体験的な学習や問題解決学習が経験できるように単元配列を見直したり、次年度の指導との関連をもたせたりなど教材研究に取り組んでまいります。

仲間といるすばらしさを実感した下野谷っ子の歓声が、響き渡ることを願ひながら～